

らなりつゝきて、まことに青垣をなせり、東の方は入海にて、いせの海といふこれなり、かくていづこもいづこも山と海との間、ひろく平原にして、北は桑名より、南は山田まで、廿里あまりがほど、山といふ物一つもこゆることなく、ひたつゝきの國原なり、その間に、廣き里々おほかる中に、山田、安濃津、松坂、桑名など、ことににぎはゝしく大きなる里なり、大かた京より江戸まで、七國八國を経てゆく間に、かばかりの大里は、近江の大津と、駿河の府をおきてはあることなし、外の國國も思ひやらる、猶件の里々につきて、四日市、白子などよき邑なり、かくて此國、海の物、山野の物、すべてともしからず、暑さ寒さも、他國にくらぶるにぎしも甚しからず、但しさむさは、北の方へよるまゝに次第に寒し、風はよくふく國なり、國のにぎはゝしきことは、大御神の宮にまづる旅人たゆることなく、ことに春夏の程は、いとくにぎはゝしき事、大かた天下にならびなし、土こえて稻いとよしたなつ物も畑つ物も、大かた皆よし、かくて松坂は、ことによき里にて、里のひろき事は、山田につきたれど、富る家おほく、江戸に店といふ物をかまへおきて、手代といふ物をおほくあらせて、あきなひせさせて、あるじは國にのみ居てあそびをり、うはべはさしもあらで、うちくはいたくゆたかにおどりてわたる、すべて此里町すぢゆがみ正しからず、家なみわろく、一つごとに一尺二尺づゝ、出入てびとしからず、いとくしどけなし、家居はさしもいかめしからず、されど内々のすまひはいとよし、水はよき所とわろき所とあひてひとしからず、川水すくなく、潮もさゝねば、船かよはず、山へは大方一里あまり、海へは半里、あまり、諸國のたよりよし、ことに京江戸大坂はたよりよし、諸國の人の入くる國なれば、いづこへもくたよりよし、人の心はよくもあらず、おごりてまことするなし、人のかたち、男も女も、中びたることさらになく、まろじ、女は里のゆたかににぎはゝしきまゝにすがたよそひよし、すべてをさく、京におとれることがなし、人の物いひは、尾張の國より東の國々はなまりおほきを、伊勢は大かたなまりなし、